

本支店会計対策

●本支店会計は、こんな感じ●

業績の好調なチュー忠商事は、ついに関西へ進出しました。
そこで関西の営業拠点として大阪に支店を設けることにしました。

まずは支店を開設する

1 大阪に支店を開設して、



今すぐ大阪に
引っ越してもらえる？

大阪に支店作る
ことにしたから

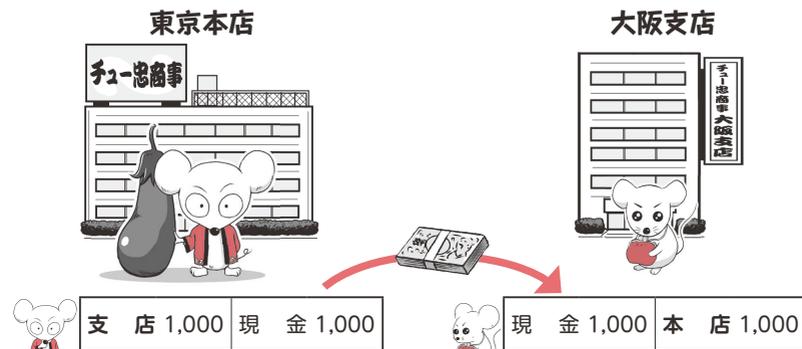


そんな急に
言われても…

2 子ネズミを大阪にとばす。



チュー忠商事の大阪支店を開設したら、大阪支店にも帳簿を作ります。
そして最初の運転資金として、本店から支店へ『現金』を送金します。



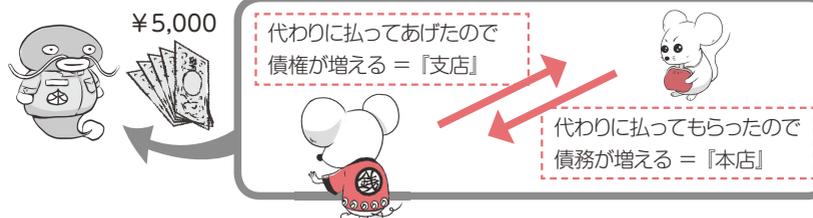
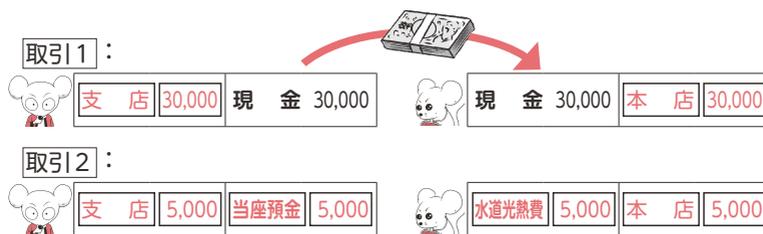
本支店間に生じた債権・債務関係は
本店の帳簿では「支店」とし、支店の帳簿では「本店」とします。
本店における『支店』は、出資して得た権利なので“株式”のイメージです。
支店における『本店』は、最初の運転資金なので“資本金”のイメージです。

設例 (本支店) -1-

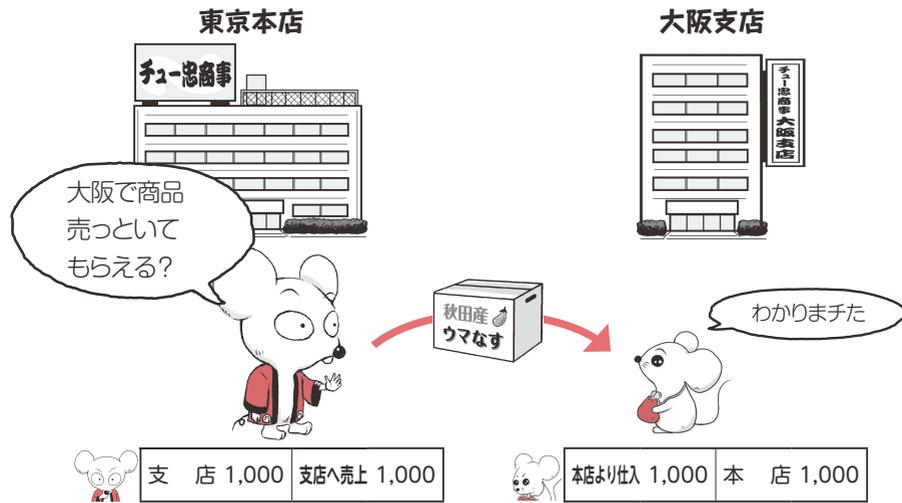
チュー忠商事の各取引について、本店と支店の仕訳をしめしなさい。

取引1 本店は支店に現金 ¥ 30,000 を送付し、支店は現金を受け取った。

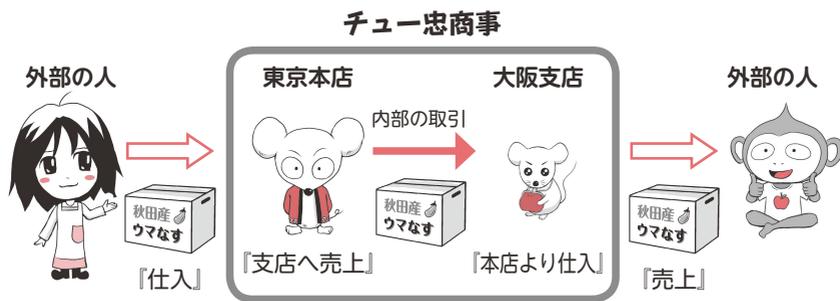
取引2 本店は支店の『水道光熱費』 ¥ 5,000 を小切手を振り出して支払い、支店はこの連絡をうけた。



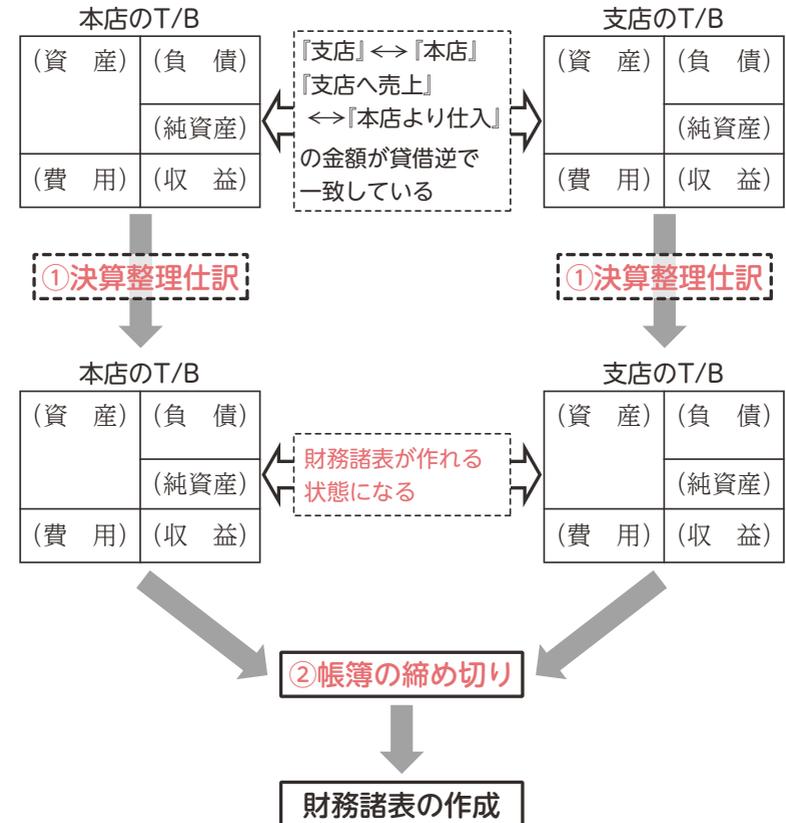
本店から支店へ商品を送付する



本店から支店へ商品を送付したときは、
 本店においては『支店へ売上』、
 支店においては『本店より仕入』とします。
 あくまで同じ会社内部での商品の移動なので、
 外部との取引である『売上』・『仕入』とは区別します。



●本支店会計のおおまかな流れ●



①決算整理仕訳について

本店でも支店でも、それぞれ決算整理仕訳を行います。

②帳簿の締め切りについて

決算整理仕訳までは、本店と支店で別々に行います。

しかし、本店と支店があるといっても1つの同じ会社ですから、最終的には利益や税金を1つの勘定でまとめて把握します。

具体的には、本店に『総合損益』という勘定を設けて、そこで1つにまとめます。

以下の(1)~(3)の流れです。

- (1)本店と支店にそれぞれ『損益』をつくり、
(収益)・(費用)項目をまとめる。
- (2)本店と支店、それぞれの利益を、本店にある『総合損益』にまとめる。

本店と支店の利益を、本店にある『総合損益』にまとめるときの注意点

まず、本店においては ① 損 益 200 / 総合損益 200 ②
(@本店) (@本店)

という仕訳を行います(数字は適当においています)。
この仕訳により本店の『損益』の勘定は貸借が一致し、
『総合損益』の貸方には本店の利益 200 が計上されます(右ページ参照)。

次に、支店の利益についても同様に仕訳を行いたいところですが、
同じようには仕訳はできません。

なぜなら、

損 益 160 / 総合損益 160
(@支店) (@本店)



仕訳の借方の帳簿が支店にあり、

貸方の帳簿が本店にあることになってしまうからです。

いくら同じ会社とはいえ、1つの仕訳の借方は大阪の支店の帳簿で行い、貸方は東京の本店の帳簿で行うことはできません。

そこで、本店と支店で、次のように仕訳を行います。

@本店

@支店

③ 支 店 160 / 総合損益 160 ④ ⑤ 損 益 160 / 本 店 160 ⑥
(@本店) (@本店) (@支店) (@支店)



(1)

@本店の帳簿

@支店の帳簿

費用項目		収益項目	
『仕 入』		『売 上』	
650			950
『給 料』		『受取利息』	
180			80
『損 益』		『損 益』	
	830	1,030	
	① 200		

費用項目		収益項目	
『仕 入』		『売 上』	
196			450
『本店より仕入』		『受取家賃』	
120			26
『損 益』		『損 益』	
	316	476	
	⑤ 160		

(2)

『総合損益』②	『支 店』
200	160
160	③
	④

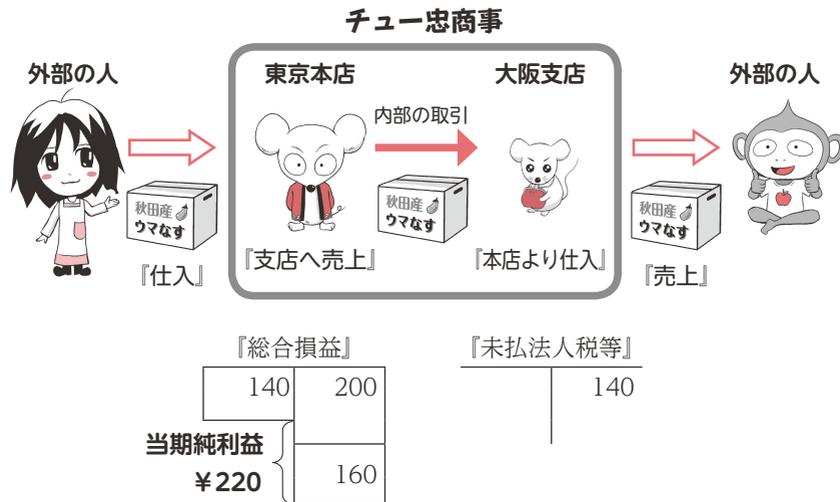
『本 店』	⑥
160	



(3)『法人税等』を計上する。

『法人税等』は1つの会社に対して課される税金であり、
利益に課される税金です。最後に『法人税等』を計上します。
その残額が、会社の当期純利益です。

(3)



※ なお、『総合損益』勘定を作らずに、@本店の帳簿の『損益』勘定で(2)~(3)をまとめて行う方法もあります。

問題 総合損益勘定の作成

青森商店(株)の第26期(平成×6年4月1日~平成×7年3月31日)の資料にもとづき、答案用紙の総合損益勘定を作成しなさい。

[資料1] 決算整理前残高試算表

残高試算表

借方	本店	支店	貸方	本店	支店
現金預金	11,700	4,000	買掛金	23,500	17,000
売掛金	30,000	24,000	貸倒引当金	500	200
支店	66,800	—	建物減価償却累計額	20,000	10,000
繰越商品	18,000	22,000	繰延内部利益	1,100	—
建物	100,000	60,000	本店	—	66,800
仕入	250,000	120,000	資本金	100,000	—
本店より仕入	—	142,800	繰越利益剰余金	18,000	—
販売費	20,800	30,000	売上	189,000	310,800
一般管理費	3,000	2,000	支店へ売上	142,800	—
			受取地代	5,400	—
	500,300	404,800		500,300	404,800

注1. 期末商品棚卸高 本店 ¥ 30,000、支店 ¥ 24,000

注2. 税引前当期純利益に対して、50%の法人税等を計上する。

[資料2] 本店側の処理

決算整理

- (借) 仕入 () (貸) 繰越商品 ()
- (借) 繰越商品 () (貸) 仕入 ()
- (借) 貸倒引当金繰入 100 (貸) 貸倒引当金 100
- (借) 減価償却費 20,000 (貸) 建物減価償却累計額 20,000

本店損益	
仕入 ()	売上 189,000
販売費 ()	支店へ売上 142,800
一般管理費 3,000	受取地代 ()
貸倒引当金繰入 ()	
減価償却費 ()	
総合損益 ()	
()	()

[資料3] 支店側の処理

決算整理

- (借) 仕入 () (貸) 繰越商品 ()
- (借) 繰越商品 () (貸) 仕入 ()
- (借) 貸倒引当金繰入 280 (貸) 貸倒引当金 280
- (借) 減価償却費 3,000 (貸) 建物減価償却累計額 3,000

支店損益	
仕入 ()	売上 310,800
本店より仕入 ()	
販売費 30,000	
一般管理費 2,000	
貸倒引当金繰入 ()	
減価償却費 ()	
本店 ()	
()	310,800

答案用紙

総合損益	
法人税等 ()	本店損益 ()
繰越利益剰余金 ()	支店 ()
()	()



解説

Step 0 本支店会計の問題を解く流れを確認する

解答する流れを確認してから、問題にとりかかりましょう。

Step 1 決算整理仕訳

Step 2 仕訳の集計

Step 3 帳簿の締め切り(勘定への記入)

Step 1 決算整理仕訳

まず、決算整理仕訳を行います。

本問では決算整理仕訳が与えられていますが、一部穴埋めになっています。

穴埋めになっている売上原価算定の仕訳は以下の通りになります。

@本店

1. (借)仕 入 (18,000) (貸)繰越商品 (18,000)
2. (借)繰越商品 (30,000) (貸)仕 入 (30,000)

@支店

1. (借)仕 入 (22,000) (貸)繰越商品 (22,000)
2. (借)繰越商品 (24,000) (貸)仕 入 (24,000)

Step 2 仕訳の集計

Step 1 の決算整理仕訳が終わったら、それらの仕訳を集計します。

答案用紙の [資料1] に直接書き込む要領で集計すると解答時間が短縮できます。

このとき、[資料1] の T/B は借方・貸方のそれぞれに、「本店の T/B の列」・「支店の T/B の列」があるので、ミスしないように注意しましょう。

Step 3 帳簿の締め切り(勘定への記入)

仕訳の金額を集計したら、@本店、@支店それぞれ P/L 項目を『損益』に集計します。

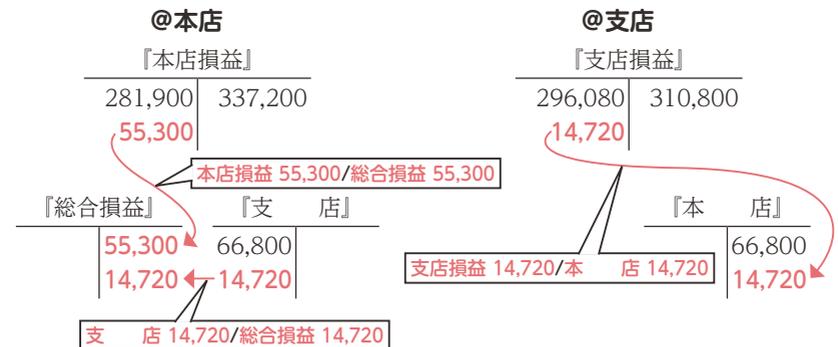
本問では『本店損益』『支店損益』となっていますが、それぞれ本店の『損益』、支店の『損益』という意味です。

@本店		本店損益	
仕入	(238,000)	売上	189,000
販売費	(20,800)	支店へ売上	142,800
一般管理費	3,000	受取地代	(5,400)
貸倒引当金繰入	(100)		
減価償却費	(20,000)		
総合損益	(55,300)		
	(337,200)		(337,200)

@支店		支店損益	
仕入	(118,000)	売上	310,800
本店より仕入	(142,800)		
販売費	30,000		
一般管理費	2,000		
貸倒引当金繰入	(280)		
減価償却費	(3,000)		
本店	(14,720)		
	(310,800)		310,800

本店損益 55,300/総合損益 55,300

『本店損益』『支店損益』を完成させたら、あとはそれぞれの利益を @本店にある『総合損益』にまとめます。勘定の流れは次の通りです。



この時点の『総合損益』の貸借差額 ¥ 70,020 (55,300 + 14,720) が税引前当期純利益です。

その 50% を法人税等として計上するので、『総合損益』は以下のようになります。

『総合損益』	
税引前当期純利益	¥ 70,020 × 50% → 35,010
残額が当期純利益	→ 35,010
	55,300
	14,720

(その後、『繰越利益剰余金』に振り替える)

解答

総合損益	
法人税等 (35,010)	本店損益 (55,300)
繰越利益剰余金 (35,010)	支店 (14,720)
(70,020)	(70,020)

なお、本問では『総合損益』の勘定記入だけが問われていますが、@本店の『支店』勘定(または@支店の『本店』勘定)の次期繰越額が問われる問題もあります。

@本店		@支店	
『支店』		『本店』	
66,800			66,800
14,720			14,720
借方残高 81,520			貸方残高 81,520

貸借逆で金額は一致

この場合、¥ 81,520 が『支店』勘定(または『本店』勘定)の帳簿上の次期繰越額となります。

『支店損益』¥ 14,720 があっていないと正解にならないので、かなり難易度の高い問題です。

このように、本支店会計の帳簿の締め切りの問題は難しいことが多いので、解いていて「難しそうだな」「時間がかかりそうだな」と感じた場合は、後回しにするか、部分点狙いに切り替えるのも戦略の1つです。

この問題が解ければ、試験対策上は十分です。

